

表 8-9-1 総合評価表（大気質）

環境	項目		調査地点 頁	現地調査時期	調査結果の概要			前提条件	予測		環境保全措置の検討 頁	評価									
	環境要素	環境要因			文献調査 頁	現地調査 頁	環境基準等		結果 頁	手法		結果 頁									
1 大気環境	1.1 窒素酸化物 浮遊粒子状物質	自動車の走行	【気象及び大気質】 事業予定地周辺 ※調査位置図 (図 8-1-1-1) 参照 8-3 8-4	【気象】 H21.7.30 ～H21.8.5 (1週間) 【大気質】 H21.7.30 ～H21.8.5 (1週間)	【気象】 平均風速： 3.5m/s 最多風向： SE 3-6	【気象】 平均風速：1.7m/s 最多風向：SE 8-7	—	【予測地点】 市道山本線 (No.2地点) 【予測年】 平成35年 【交通量】 路線伸び率、 利用交通量設定 【排出係数】 年次別排出係数 適用	将来の自動車の排出係数（車両1台当りの排出する汚染物質質量）が低くなるため、将来交通量は増加するが、沿道の大気質濃度は現況よりも低くなると予測される。 No.2地点 <table border="1"> <tr><th>時期</th><th>NO<sub>2</sub></th><th>SPM</th></tr> <tr><td>平日</td><td>0.020</td><td>0.046</td></tr> <tr><td>休日</td><td>0.017</td><td>0.044</td></tr> </table> NO <sub>2</sub> ：日平均値の年間98%値 SPM：日平均値の年間2%除外値 8-24 ～ 8-25	時期	NO <sub>2</sub>	SPM	平日	0.020	0.046	休日	0.017	0.044	環境影響の程度は軽微であると予測されたため、環境保全措置は講じないものとする。 8-26	①自動車の走行に係る二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の影響をどのように回避し、または低減したのか説明する。 ②予測の結果と大気質に係る保全目標値との整合が図られているか。	①回避・低減策 事業者は、利用車両台数の低減を図るため、近隣からの利用者が自転車で直接アクセスできるように、駐輪場や、自転車利用に配慮した園路を整備する計画とする。 8-26 ～ 8-27
					時期	NO <sub>2</sub>				SPM											
平日	0.020	0.046																			
休日	0.017	0.044																			
【交通量】 市道山本線 (No.2地点) ※調査位置図 (図 8-1-1-2) 参照 8-3 8-5	【交通量】 — —	【交通量】 平日：9,391台/日 休日：4,587台/日 8-9 ～ 8-10	【保全目標値】 NO <sub>2</sub> ：日平均値の年間98%値が0.06ppm以下 SPM：日平均値の年間2%除外値が0.10 mg/m <sup>3</sup> 以下	②保全目標との整合 予測結果と保全目標値との整合は図られている。																	
1.2 粉じん等	建設機械の稼働 粉じん等	建設機械の稼働	【気象】 事業予定地周辺 ※調査位置図 (図 8-1-1-1) 参照 8-3 8-4	【気象】 H21.7.30 ～H21.8.5 (1週間)	【規制等の状況】 国、北海道及び札幌市において、降下ばいじん量に係る基準又は目標は示されていない。 【気象】 札幌管区気象台（H22） 風向・風速 8-29	【気象】 平均風速：1.7m/s 最多風向：SE 8-7	【保全目標値】 10 t/km <sup>2</sup> /月 「道路環境影響評価の技術手法」に示されている参考値	【予測時期】 土工実施時期 (工事施工範囲を4工区に区分) 【予測地点】 事業予定地周辺地域の住居	事業予定地最寄りの住居において、降下ばいじん量の予測最大値は、9.5 t/km <sup>2</sup> /月となり、工事の実施に伴う粉じん等の影響は概ね軽微なものと予測される。 No.1地点 <table border="1"> <tr><th>時期</th><th>降下ばいじん量</th></tr> <tr><td>4工区 夏季</td><td>9.5 t/km<sup>2</sup>/月</td></tr> </table> ※建設機械による寄与 8-39 ～ 8-41	時期	降下ばいじん量	4工区 夏季	9.5 t/km <sup>2</sup> /月	環境影響の程度は軽微であると予測されたため、環境保全措置は講じないものとする。 8-42	①建設機械の稼働に係る粉じんの発生段階の負荷量の削減措置、大気環境へ排出される段階の低減措置等について明らかにすることにより、影響をどのように回避し、または低減したのか説明する。 ②予測の結果と粉じん等に係る保全目標値との整合が図られているか。	①回避・低減策 事業者は、工事に係る検討段階において、工事が一時期に集中しないように工事施工範囲を4工区に分割することにより、粉じん等の発生量の低減を図る。 また、適宜工事現場内の散水を行うとともに、裸地等は速やかに緑化するように配慮する等、生活環境の保全に努める。 ②保全目標との整合 予測結果と保全目標値との整合は図られている。					
										時期	降下ばいじん量										
4工区 夏季	9.5 t/km <sup>2</sup> /月																				
【交通量】 市道山本線 (No.2地点) ※調査位置図 (図 8-1-1-2) 参照 8-3 8-5	【交通量】 — —	【交通量】 平日：9,391台/日 8-9	【予測地点】 市道山本線 沿道人家 【予測年】 平成32～34年 【交通量】 路線伸び率、 工事車両交通量 設定	工事用車両走行道路沿道地域の住居において、降下ばいじん量の予測最大値は、2.5 t/km <sup>2</sup> /月となり、工事用車両の走行に伴う粉じん等の影響は軽微であると予測される。 市道山本線沿道人家 <table border="1"> <tr><th>時期</th><th>降下ばいじん量</th></tr> <tr><td>4工区 夏季</td><td>2.5 t/km<sup>2</sup>/月</td></tr> </table> ※工事車両による寄与 8-53 ～ 8-54	時期	降下ばいじん量	4工区 夏季	2.5 t/km <sup>2</sup> /月	①工事用車両の走行に係る粉じんの発生段階の負荷量の削減措置、大気環境へ排出される段階の低減措置等について明らかにすることにより、影響をどのように回避し、または低減したのか説明する。 ②予測の結果と粉じん等に係る保全目標値との整合が図られているか。												
時期	降下ばいじん量																				
4工区 夏季	2.5 t/km <sup>2</sup> /月																				
							【予測時期】 土工実施時期 (工事施工範囲を4工区に区分) 【予測地点】 事業予定地周辺地域の住居	最寄り住居において建設機械と工事車両の合算値は9.8 t/km <sup>2</sup> /月となり、保全目標を満足する。 No.1地点 <table border="1"> <tr><th>時期</th><th>降下ばいじん量</th></tr> <tr><td>4工区 夏季</td><td>9.8 t/km<sup>2</sup>/月</td></tr> </table> ※建設機械と工事車両の合算 8-55 ～ 8-56	時期	降下ばいじん量	4工区 夏季	9.8 t/km <sup>2</sup> /月	②保全目標との整合 予測結果と保全目標値との整合は図られている。								
時期	降下ばいじん量																				
4工区 夏季	9.8 t/km <sup>2</sup> /月																				

表 8-9-2 総合評価表（騒音）

環境	項目		調査地点	頁	現地調査時期	調査結果の概要			予測			環境保全措置の検討	頁	評価											
	環境要素	環境要因				文献調査	頁	現地調査	頁	環境基準等	前提条件			結果	頁	手法	結果	頁							
1 大気環境	1.3 騒音	建設機械の稼働	【環境騒音】 事業予定地周辺  ※調査位置図 (図 8-2-1-1) 参照	8-59	・平日 H21.9.17(木)  16 時間(6 時～ 22 時)調査	【地域類型 指定状況】 事業予定地 周辺地域は、 環境基準の 地域類型指 定を受けて いない。	8-61	【環境騒音レベル】 (測定時間平均値)  No.1 地点 騒音レベル(LAeq) 平日：46dB	8-60	【保全目標値】 60dB(昼間) 「C 類型の一般地 域」の環境基準を 当てはめた参考 値	【予測時期】 土工事実施時期 (工事施工範囲 を4工区に区分) 【予測地点】 事業予定地周辺 地域の住居	保全対象となる予測地点に おいて、参考として当てはめ た環境基準 60dB に対し、最大 59dB と予測される。  No.1 地点 <table border="1"> <tr><th>時期</th><th>時間</th><th>騒音レベル</th></tr> <tr><td>4工区 平日</td><td>昼間</td><td>59dB</td></tr> </table>	時期	時間	騒音レベル	4工区 平日	昼間	59dB	8-68 ～ 8-69	本事業実施に伴う予測 結果は、工事が一時期 に集中しないようにす るため工事施工範囲を 4 工区に分割して行う ことにより、最も影響 の大きい住居 (No.1 地 点) で保全目標とした C 類型の環境基準 (60dB) を満足したが、 基準値に近い値となる ことが予測された。 予測は、造成工事中は 最寄りの住居と事業予 定地の間にある高さ約 2.5m の仮囲いを継続 して維持することを前 提としており、新たな 環境保全のための措置 は講じないものの、仮 囲いについては必要に 応じて補修などを行う ものとする。また、予 測には反映しなかった が、既存の林帯も残し て緩衝帯となるように 留意する。	8-70 8-319	①騒音発生源に係 るパワーレベルの 削減措置、周辺環境 への影響の低減措 置等について明ら かにすることによ り、影響をどのよう に回避し、又は低減 したのか説明する。  ②予測の結果と環 境騒音に係る保全 目標値との整合が 図られているか。	①回避・低減策 事業者は、工事に係る検討段 階において、工事が一時期に 集中しないように工事施工 範囲を4工区に分割すること により、騒音の低減を図る。 また、使用する建設機械は極 力低騒音型とする、工事中は 最寄り住居との間にある仮 囲いを維持補修する、工事時 間帯は日中にする等、生活環 境の保全に努める。  ②保全目標との整合 予測結果と保全目標値との 整合は図られている。	8-71	
		時期	時間	騒音レベル																					
		4工区 平日	昼間	59dB																					
資材及び機械の 運搬に用いる車 両の運行	【自動車交通騒音 及び交通量】 市道山本線 (No.2 地点)  ※調査位置図 (図 8-2-1-1) 参照	8-59	【自動車交通騒 音及び交通量】  ・平日 H21.9.17(木)  16 時間(6 時～ 22 時)調査	【地域類型 指定状況】 事業予定地 周辺地域は、 環境基準の 地域類型指 定を受けて いない。	8-75	【自動車騒音レベル】 (測定時間平均値)  No.2 地点 騒音レベル(LAeq) 平日：71dB  【交通量】 No.2 地点 平日：9,391 台/日  ※騒音レベル及び 交通量は、昼間(6 時～22 時)の値	8-73	【保全目標値】 75dB(昼間) 「c 区域のうち車 線を有する道路 に面する区域」の 要請限度を当て はめた参考値	【予測地点】 市道山本線 (No.2 地点) 【予測年】 平成 32～34 年 【交通量】 路線伸び率、 工事車両交通量 設定	保全対象となる予測地点に おいて、参考として当てはめ た環境基準 75dB に対し、最大 71dB と予測される。  No.2 地点 <table border="1"> <tr><th>時期</th><th>時間</th><th>騒音レベル</th></tr> <tr><td>4工区 平日</td><td>昼間</td><td>71dB</td></tr> </table>	時期	時間	騒音レベル	4工区 平日	昼間	71dB	8-86	環境影響の程度は軽微 であると予測されたた め、環境保全措置は講 じないものとする。	8-86	①工事用車両の走 行による周辺環境 への影響の低減措 置等について明ら かにすることによ り、どのように回避 し、又は低減したの か説明する。  ②予測の結果と自 動車騒音に係る保 全目標値との整合 が図られているか。	①回避・低減策 事業者は、工事に係る検討段 階において、工事が一時期に 集中しないように工事施工 範囲を4工区に分割すること により工事用車両の走行台 数を分散させ、騒音の低減を 図る。 また、資材及び機械の運搬に 用いる車両の運行ルートは 住宅密集地を極力避け、工事 時間帯を日中にする等、生活 環境の保全に努める。  ②保全目標との整合 予測結果と保全目標値との 整合は図られている。	8-87			
時期	時間	騒音レベル																							
4工区 平日	昼間	71dB																							
自動車の走行	【自動車交通騒音 及び交通量】 市道山本線 (No.2 地点)  ※調査位置図 (図 8-2-1-1) 参照	8-59	【自動車交通騒 音及び交通量】  ・平日 H21.9.17(木) ・休日 H21.8.2(日)  16 時間(6 時～ 22 時)調査	【地域類型 指定状況】 事業予定地 周辺地域は、 環境基準の 地域類型指 定を受けて いない。	8-93	【自動車騒音レベル】 (測定時間平均値)  No.2 地点 騒音レベル(LAeq) 平日：71dB 休日：68dB  【交通量】 No.2 地点 平日：9,391 台/日 休日：4,587 台/日  ※騒音レベル及び 交通量は、昼間(6 時～22 時)の値	8-89 ～ 8-90	【保全目標値】 75dB(昼間) 「c 区域のうち車 線を有する道路 に面する区域」の 要請限度を当て はめた参考値	【予測地点】 市道山本線 (No.2 地点) 【予測年】 平成 35 年 【交通量】 路線伸び率、 利用交通量設定	予測地点において、現況騒音 レベルとの差はほとんどな く、大きな変化はないと予測 される。  No.2 地点 <table border="1"> <tr><th>時期</th><th>時間</th><th>騒音レベル</th></tr> <tr><td>平日</td><td>昼間</td><td>71dB</td></tr> <tr><td>休日</td><td>昼間</td><td>68dB</td></tr> </table>	時期	時間	騒音レベル	平日	昼間	71dB	休日	昼間	68dB	8-99	環境影響の程度は軽微 であると予測されたた め、環境保全措置は講 じないものとする。	8-100	①自動車の走行に よる周辺環境への 影響の低減措置等 について明らかに することにより、ど のように回避し、又 は低減したのか説 明する。  ②予測の結果と自 動車騒音に係る保 全目標値との整合 が図られているか。	①回避・低減策 事業者は、利用車両台数の低 減を図るため、近隣からの利 用者が自転車直接アクセ スできるよう、駐輪場や自転 車利用に配慮した園路を整 備する計画とする。  ②保全目標との整合 予測結果と保全目標値との 整合は図られている。	8-101
時期	時間	騒音レベル																							
平日	昼間	71dB																							
休日	昼間	68dB																							

表 8-9-3 総合評価表（振動）

環境	項目		調査地点 頁	現地調査時期	調査結果の概要			予測		環境保全措置の検討 頁	評価																		
	環境要素	環境要素			文献調査 頁	現地調査 頁	環境基準等	前提条件	結果 頁		手法	結果 頁																	
1 大気環境	1.4 振動	建設機械の稼働	【環境振動】 事業予定地周辺  ※調査位置図 (図 8-2-1-1) 参照	8-59	・ 平日 H21.9.17(木)  16 時間(6 時～ 22 時)調査	【規制基準の 区域指定状 況】 事業予定地 周辺地域は、 振動規制法 に基づく規 制区域の指 定を受けて いない。	8-103	【環境振動レベル】 (測定時間平均 値)  No.1 地点 振動レベル(L <sub>10</sub> ) 平日：30dB	8-103	【保全目標値】 55dB 振動感覚閾値 人が振動を感 じる又は感じ ないの境目の 値	【予測時期】 土工実施時期 (工事施工範囲 を4工区に区分)  【予測地点】 事業予定地周辺 地域の住居	予測地点の最大値は、51dB と 予測される。 この振動レベルは、人が振動 を感じないレベルである。  No.1 地点 <table border="1"> <tr><th>時期</th><th>時間</th><th>振動レベル</th></tr> <tr><td>4 工区 平日</td><td>昼間</td><td>51dB</td></tr> </table>	時期	時間	振動レベル	4 工区 平日	昼間	51dB	8-106 ～ 8-107	環境影響の程度は軽微で あると予測されたため、 環境保全措置は講じない ものとする。	8-108	①振動発生源に係る 振動レベルの削減措 置、周辺環境への影 響の低減措置等につ いて明らかにするこ とにより、影響をど のように回避し、又 は低減したのか説明 する。  ②予測の結果と環境 振動に係る保全目標 値との整合が図られ ているか。	①回避・低減策 事業者は、工事に係る検討段 階において、工事が一時期に 集中しないように工事施工 範囲を4工区に分割すること により、振動の低減を図る。 また、使用する建設機械は極 力低振動型とする、工事時間 帯は日中にする等、生活環境 の保全に努める。  ②保全目標との整合 予測結果と保全目標値との 整合は図られている。	8-108					
		時期	時間	振動レベル																									
		4 工区 平日	昼間	51dB																									
資材及び機械の 運搬に用いる車 両の運行	【道路交通振動及 び交通量並びに 地盤卓越振動数】 市道山本線 (No.2 地点)  ※調査位置図 (図 8-2-1-1) 参照	8-59	【道路交通振動 及び交通量】  ・ 平日 H21.9.17(木)  16 時間(6 時～ 22 時)調査  【地盤卓越振動 数】 ・ 休日 H21.8.2(日)	【規制基準の 区域指定状 況】 事業予定地 周辺地域は、 振動規制法 に基づく規 制区域の指 定を受けて いない。	8-111	【道路交通振動レ ベル】 (測定時間平均 値)  No.2 地点 振動レベル(L <sub>10</sub> ) 平日：55dB(昼)  【地盤卓越振動数】 19.7Hz  【交通量】 No.2 地点 平日：9,391 台/日  ※振動レベルは、 昼間(8 時～19 時) の値	8-110	【保全目標値】 70dB(昼間) 「第2種区域にお ける要請限度」を 当てはめた参考 値	【予測地点】 市道山本線 (No.2 地点)  【予測年】 平成 32～34 年  【交通量】 路線伸び率、 工事車両交通量 設定	予測地点の最大値は、55dB と 予測される。 この振動レベルは、人が振動 を感じはじめるレベルである が、基準値を満足する。  No.2 地点 <table border="1"> <tr><th>時期</th><th>時間</th><th>振動レベル</th></tr> <tr><td>4 工区 平日</td><td>昼間</td><td>55dB</td></tr> </table>	時期	時間	振動レベル	4 工区 平日	昼間	55dB	8-115	環境影響の程度は軽微で あると予測されたため、 環境保全措置は講じない ものとする。	8-116	①工事用車両の走行 による周辺環境への 影響の低減措置等につ いて明らかにする ことにより、どのよ うに回避し、又は低 減したのか説明す る。  ②予測の結果と道路 交通振動に係る保全 目標値との整合が図 られているか。	①回避・低減策 事業者は、工事に係る検討段 階において、工事が一時期に 集中しないように工事施工 範囲を4工区に分割すること により工事用車両の走行台 数を分散させ、振動の低減を 図る。 また、資材及び機械の運搬に 用いる車両の運行ルートは 住宅密集地を極力避け、工事 時間帯を日中にする等、生活 環境の保全に努める。  ②保全目標との整合 予測結果と保全目標値との 整合は図られている。	8-117							
時期	時間	振動レベル																											
4 工区 平日	昼間	55dB																											
自動車の走行	【道路交通振動及 び交通量並びに 地盤卓越振動数】 市道山本線 (No.2 地点)  ※調査位置図 (図 8-2-1-1) 参照	8-59	【道路交通振動 及び交通量】  ・ 平日 H21.9.17(木) ・ 休日 H21.8.2(日)  16 時間(6 時～ 22 時)調査  【地盤卓越振動 数】 ・ 休日 H21.8.2(日)	【規制基準の 区域指定状 況】 事業予定地 周辺地域は、 振動規制法 に基づく規 制区域の指 定を受けて いない。	8-120	【道路交通振動レ ベル】 (測定時間平均 値)  No.2 地点 振動レベル(L <sub>10</sub> ) 平日：55dB(昼) 47dB(夜) 休日：41dB(昼) 38dB(昼)  【地盤卓越振動数】 19.7Hz  【交通量】 No.2 地点 平日：9,391 台/日 休日：4,587 台/日  ※振動レベルは、 昼間(8 時～19 時) の値	8-119 ～ 8-120	【保全目標値】 70dB(昼間) 「第2種区域にお ける要請限度」を 当てはめた参考 値  65dB(夜間) 「第2種区域にお ける要請限度」を 当てはめた参考 値	【予測地点】 市道山本線 (No.2 地点)  【予測年】 平成 35 年  【交通量】 路線伸び率、 利用交通量設定	予測地点において、現況振動 レベルとの差は最大で 1dB で、大きな変化はないと予測 される。また、人が振動を感 じないレベルである。  No.2 地点 <table border="1"> <tr><th>時期</th><th>時間</th><th>振動レベル</th></tr> <tr><td rowspan="2">平日</td><td>昼間</td><td>55dB</td></tr> <tr><td>夜間</td><td>47dB</td></tr> <tr><td rowspan="2">休日</td><td>昼間</td><td>42dB</td></tr> <tr><td>夜間</td><td>38dB</td></tr> </table>	時期	時間	振動レベル	平日	昼間	55dB	夜間	47dB	休日	昼間	42dB	夜間	38dB	8-123	環境影響の程度は軽微で あると予測されたため、 環境保全措置は講じない ものとする。	8-124	①自動車の走行によ る周辺環境への影響 の低減措置等につ いて明らかにするこ とにより、どのよう に回避し、又は低減 したのか説明する。  ②予測の結果と道路 交通振動に係る保全 目標値との整合が図 られているか。	①回避・低減策 事業者は、利用車両台数の低 減を図るため、近隣からの利 用者が自転車直接アクセ スできるよう、駐輪場や自転 車利用に配慮した園路を整 備する計画とする。  ②保全目標との整合 予測結果と保全目標値との 整合は図られている。	8-125
時期	時間	振動レベル																											
平日	昼間	55dB																											
	夜間	47dB																											
休日	昼間	42dB																											
	夜間	38dB																											

表 8-9-7 総合評価表 (景観)

環境	項目		調査地点	頁	現地調査時期	調査結果の概要			予測		環境保全措置	頁	評価					
	環境要素	環境要因				文献調査	頁	環境基準等	前提条件	結果			頁	手法	結果	頁		
5 景観	5.1 主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観	地形変更後の土地及び工作物の存在	・写真撮影眺望景観12地点	8-295 ～ 297	・夏季 H21. 8. 26 ・秋季 H21. 10. 28 ・冬季 H22. 2. 1	<p>【主要な眺望点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>野幌森林公園</li> <li>北海道百年記念塔</li> <li>JR 函館本線厚別駅</li> <li>JR 函館本線 森林公園駅</li> <li>川下公園</li> </ul>	3-76 77	<ul style="list-style-type: none"> <li>野幌森林公園 北海道百年記念塔 記念塔に設置された展望室からは、夏、秋ともに、主要な眺望景観である札幌市の都市景観の一部として事業予定地全体を眺望できる。</li> <li>JR 函館本線厚別駅 駅の跨線橋からは、夏、秋、冬ともに民家に遮られて事業予定地を眺望できない。</li> <li>JR 函館本線森林公園駅 駅のり線ホームからは、夏、秋、冬ともにマンションや街路樹に遮られ、事業予定地を眺望できない。</li> <li>川下公園 北側駐車場付近の遊歩道からは、夏、秋、冬ともに樹木や建築物に遮られ、事業予定地を眺望できない。</li> <li>環状夢のクーパー発祥記念の森 夏、秋、冬ともに樹林に遮られ、事業予定地を眺望できない。</li> <li>山本緑地 西側からは、夏、秋ともに事業予定地の西側外縁部に位置する山本緑地に遮られ、事業予定地を眺望できない。冬には山本緑地の落葉したカラマツの樹間から事業予定地の台地法面を眺望できる。</li> <li>山本緑地 パークゴルフ場 駐車場入り口からは夏、秋、冬ともに事業予定地の西側外縁部を眺望できる。</li> <li>山本川緑地(ヤチダモ並木) 山本中橋からは、夏、秋、冬ともに事業予定地の西側外縁部を眺望できる。山本三区バス停留所からは、夏、秋、冬ともに事業予定地南西側外縁部のカラマツ植林を眺望できる。</li> <li>厚別北のもり緑地 夏、秋ともに下水処理場と野津幌川の河畔林に遮られて事業予定地南部の樹林の樹冠部が僅かに視認できるのみである。冬には野津幌川の河畔林が落葉し、樹間から事業予定地東側外縁の一部と南部の樹林の樹冠部が眺望できる。</li> <li>厚別区民野球場 夏には樹林に遮られ事業予定地を眺望できない。秋と冬には落葉した樹林の樹間から事業予定地西側外縁の一部を眺望できる。</li> <li>共済グラウンド 夏には民家と山本川緑地(ヤチダモ並木)に遮られて事業予定地南西側外縁部のカラマツ植林の一部のみが視認できる。秋と冬には落葉したヤチダモ並木の樹間から事業予定地西側外縁の一部を眺望できる。</li> <li>市道山本線 山本処理場管理事務所付近からは、夏、秋、冬ともに事業予定地の北側外縁部を眺望できる。市道山本線と山本川の交差点に架かる山本橋からは、夏、秋、冬ともに事業予定地の西側外縁部を眺望できる。山本川沿いのこどう亀さんの看板が設置された箇所付近からは、夏、秋、冬ともに事業予定地の西側外縁部を眺望できる。</li> </ul>	8-298 299 301 8-298 299 302 8-298 299 303 8-298 299 304 8-298 299 305 8-298 299 306 8-298 299 307 8-298 299 308 312 8-298 300 313 8-298 300 314 8-298 300 315 8-298 300 316 323	—	<p>【予測地域】</p> <p>事業予定地及びその周辺</p> <p>【予測時期】</p> <p>工事の施工後における事業活動が定常に達した時期</p> <p>【予測対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>野幌森林公園</li> <li>北海道百年記念塔</li> <li>山本緑地</li> <li>山本緑地 パークゴルフ場</li> <li>山本川緑地(ヤチダモ並木)</li> <li>厚別北のもり緑地</li> <li>厚別区民野球場</li> <li>共済グラウンド</li> <li>市道山本線</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>野幌森林公園 北海道百年記念塔 眺望点からは事業予定地全体が眺望可能なものの、事業予定地までは2.8kmの距離があり遠景域に視認され、視野に占める事業予定地の範囲は極めて小さい。また、供用後においても眺望の変化がなく、周辺景観との調和が図られている。このため環境影響の程度は極めて小さいものと予測される。</li> <li>山本緑地 眺望点からは事業予定地は眺望可能なものの、山本緑地は改変されず、供用後も周辺景観との調和が図られている。このため環境影響の程度は小さいものと予測される。</li> <li>山本緑地パークゴルフ場 眺望点からは事業予定地は眺望可能なものの、パークゴルフ場が事業予定地の中へ移設するため、供用後に来場者はなくなる。また、景観は山本緑地と同様であり、環境影響の程度は小さいものと予測される。</li> <li>山本川緑地(ヤチダモ並木) 山本中橋は供用後にメインエントランスとなり、眺望点から事業予定地が最も良く眺望できるが、供用後も稜線形状や周辺景観との調和が保たれており、影響の程度は小さいものと予測される。</li> <li>厚別北のもり緑地 眺望点から事業予定地が冬季に眺望可能なものの、夏季は手前の木々や下水処理場に視界が阻まれる。供用後も周辺景観との調和が図られており、環境影響の程度は小さいものと予測される。</li> <li>厚別区民野球場 眺望点からは事業予定地は眺望可能なものの、南側の施設は確認できない。北側の形状は現況と大きく変わらず、供用後も周辺景観との調和が図られており、影響の程度は小さいものと予測される。</li> <li>共済グラウンド 眺望点からは事業予定地は眺望可能なものの、南側の施設は確認できない。北側の形状は現況と大きく変わらず、供用後も周辺景観との調和が図られており、影響の程度は小さいものと予測される。</li> <li>市道山本線 眺望点からは事業予定地は眺望可能なものの、事業予定地の北側の形状は現況と大きく変わらない計画から、供用後もほぼ同じ眺望となると判断される。このため環境影響の程度は小さいものと予測される。</li> </ul>	8-325 8-325 8-325 8-325 8-325 8-325 8-325 8-325 8-325 8-325	<p>予測結果から影響は極めて小さいと判断される。積極的に植樹するなどの環境保全のための措置を講ずる。</p>	8-326	<p>①景観への環境影響について、現況と予測結果の対比を行い、実行可能な範囲内で、できる限り回避され、又は低減されており、必要に応じてその他の方法により環境保全についての配慮が適正に行われているかどうかを評価する手法。</p> <p>②国、札幌市等が実施する環境施策によって、景観に係る基準又は目標が示されている場合にあっては、予測の結果と当該基準等との整合が図られているか否かについて評価する手法。</p>	<p>①事業の実施による眺望点及び景観資源の改変はない。</p> <p>また、事業予定地周辺の眺望点からの景観は、現況の施設とほとんど変わらず、スカイラインにもほとんど影響を与えないことから、事業の実施による環境影響の程度は極めて小さいと予測され、環境への影響は、事業者の実施可能な範囲内で回避又は低減されているものと評価する。</p>	8-326

8-9-4(1) 総合評価表 (植物)

環境	項目		調査地点	頁	現地調査時期	調査結果の概要			予測			環境保全措置	評価			
	環境要素	環境要因				文献調査	頁	現地調査	頁	環境基準等	前提条件		結果	頁	手法	結果
2 植物	2.1 重要な植物種及び群落とその生育地	建設機械の稼働 地形変更後の土地及び工作物の存在	【植物】 ・植物相 ・植生 事業予定地 隣接地 関連地域(小) 関連地域(大)	8-127 ~ 130 全域 全域 全域	【植物】 ・植物相 H21. 6.16~17 H21. 8. 3~5 H21. 10. 1,13,16 ・植生 H21. 8. 3~5	【貴重な植物】 15科23種 ・エゾノミズタマ ・ノダイカ ・ミナグサ ・タチホバ ・アカミノウイヨウショウマ ・フクシユウカ ・ホサキシモツク ・エゾムラサキ ・エゾナミキ ・エゾノカワチシヤ ・タスキモ ・ヒメゴケ ・オモミ ・イトモ ・ミスアオイ ・ホハトシヨウツナギ ・ハトシヨウツナギ ・ミスバシヨウ ・ミクリ ・タミクリ ・ナガミクリ ・ヒメクリ ・エゾハリスゲ	3-65 ~ 66	【植物】 65科240種 【貴重な植物】 4科5種 ・タスキモ 事 池 川 小 大 ○ ○ ○ ○ ○ 約24,000株確認 ・リュウノヒゲモ 事 池 川 小 大 ○ ○ ○ ○ ○ 約100株確認 ・イトモ 事 池 川 小 大 ○ ○ ○ ○ ○ 約11,000株確認 ・ヒンジモ 事 池 川 小 大 ○ ○ ○ ○ ○ 約10,000株確認 ・ミクリ 事 池 川 小 大 ○ ○ ○ ○ ○ 約140,300株確認 事:事業予定地 池:隣接地(調整池(水路含む)) 川:隣接地(山本川) 小:関連地域(小) (新津川を含む) 大:関連地域(大)	8-132 ~ 147	環境基準等	【予測地域】 事業予定地及びその周辺 【予測時期】 工事の施工中の代表的な時期及び工事の施工後における事業活動が定常に達した時期 【予測対象種】 ・タスキモ ・リュウノヒゲモ ・イトモ ・ヒンジモ ・ミクリ 【土地・工作物の存在】 事業予定地内には本種が生育可能な環境は分布していない。 山本川には生育しない。調整池、山本川及び関連地域では、変更後の土地及び工作物は存在しない。供用時に施設から発生する排水は下水に流す計画である。 雨水については、供用時も現況と同様に、表流水は山本川へ、浸透水は既存の処理施設での処理を継続する。 以上のことから、地形変更後の土地及び工作物の存在による本種の個体・個体群・生育地に及ぼす影響はないと予測される。 ・ヒンジモ 【建設機械の稼働】 事業予定地内には本種が生育可能な環境は分布していない。 事業予定地と離れた関連地域(大)に生育する。 以上のことから、建設機械の稼働が本種の個体・個体群・生育地に及ぼす影響はないと予測される。 【土地・工作物の存在】 事業予定地には生育しない。 事業予定地と離れた関連地域(大)に生育する。 以上のことから、地形変更後の土地及び工作物の存在による本種の個体・個体群・生育地に及ぼす影響はないと予測される。	8-148 ~ 161	環境影響の程度は軽微であると予測されたため、環境保全措置は講じないものとする。	8-163	①保全すべき対象について、現況と工中及び施行後の状況との対比を行い、本事業の実施による影響をどのように回避し、または低減したのか説明する。 (理由) 事業に係る環境配慮が適正に行われていることを明らかにするため。 ①環境への影響は、事業者の実施可能な範囲内で回避又は低減されているものと評価する。 ・貴重な植物の生育地である「山本川」「調整池」「厚別西川」「調整池と山本川を連絡する水路」等はいずれも直接変更されず、現況の環境が保全される。 ・山本川以外には事業予定地からの雨水排水等の流出はしない。 ・山本川については、現況でも事業予定地からの雨水排水を流出しており、工中も供用後も現況と同様に雨水排水を流出する計画である。 ・工中は、既存の集水施設を活用しつつ、必要な場合は流出水等を一時的に滞留させ土砂を沈殿させる、土砂の流出等を防止するために仮置き土等の勾配を緩く整形し周辺には排水溝を設置する等の手法を検討する。	8-163

表 8-9-4(2) 総合評価表 (植物)

環境	項目		調査地点	頁	現地調査時期	調査結果の概要			予測			環境保全措置	頁	評価			
	環境要素	環境要因				文献調査	頁	現地調査	頁	環境基準等	前提条件			結果	頁	手法	結果
											・ミクリ  <b>【建設機械の稼動】</b> 事業予定地内には本種が生育可能な環境は分布していない。 山本川には生育している。 本事業において本種生育地である山本川、調整池と山本川を連絡する水路、関連地域(小)、関連地域(大)は改変しない。 工事中の雨水については、現況と同様に表流水は山本川へ、浸透水は既存の処理施設で処理を継続する。 また、既存の集水施設を活用しつつ、必要な場合は流出水等を一時的に滞留させ土砂を沈殿させる、土砂の流出等を防止するために仮置き土等ののり勾配を緩く整形し周辺には排水溝を設置する等の手法を検討する。 以上のことから、建設機械の稼動が本種の個体・個体群・生育地に及ぼす影響は軽微であると予測される。  <b>【土地・工作物の存在】</b> 事業予定地内には本種が生育可能な環境は分布していない。 本事業において山本川等の本種生育地は改変しない。 供用時に施設から発生する排水は下水に流す計画である。 雨水については、供用時も現況と同様に、表流水は山本川へ、浸透水は既存の処理施設での処理を継続する。 以上のことから、地形改変後の土地及び工作物の存在による本種の個体・個体群・生育地に及ぼす影響は軽微であると予測される。	8-162	環境影響の程度は軽微であると予測されたため、環境保全措置は講じないものとする。	8-163			